
第24回国際心理学会に参加して

水野 晴光

第24回国際心理学会 (The 24th International Congress of Psychology) が去る8月28日より9月2日までオーストラリアのシドニーで開催された。約60カ国より3000余名の正式参加者に加えて相当数の当日参加もあり、オペラハウスで行われた開会式には会場に入れない人も出たほどで、連日盛況を極めた。以下その報告をかねて、私の雑感を記しておきたい。

研究発表は8月29日(月)から9月2日(金)の5日間に集中し、5会場に分かれて同時進行した。全日程で165項目のもとに約24000の発表が行われた。筆者の聞きたい発表が同じ時間帯に集中していたりして、幾つかを断念せざるをえないケースもあったが、短時日にこれだけ盛り沢山の講演発表を消化するためにはやむをえないことであろう。

正式参加者は主催国のオーストラリアが785名、次いでアメリカが722名で群を抜き、西独の203名、日本の180名、カナダの155名、英国の135名が目立った。地域別ではヨーロッパ諸国は殆んど参加しており、アジア地域では、日本、中国、台湾、香港、インドネシア、マレーシア、シンガポール、タイ、インドなどが参加した。南北アメリカからは、合衆国、カナダの他にキューバ、アルゼンチン、ブラジル、メキシコ、ペルーなどの参加があった。アフリカ諸国からの参加は最も伸びず、エジプト、ケニア、ナイジェリア、南アフリカ、ジンバブエ、ザンビアなどの数カ国にとどまった。オ

セアニア地域では、フィジーからの参加が目にとまった。

研究発表では Cognitive Psychology 関係の論文が群を抜いて多く、次いで Clinical Psychology や Developmental Psychology 関係の論文が際立って多く、現在の心理学研究の動向が伺われる思いがした。他に100本以上の論文発表が集中した分野は、Health Psychology, Social Psychology, Industrial / Organizational Psychology 及び Comparative Psychology / Animal Behavior 等であった。

講演や討論の中で、さらに閉会後のコンベンション・ツアー等を通して多くの会員と親睦の機会をもつことが出来たことは、何よりの思い出となった。殊にモナッシュ大学、テキサス大学、スタンフォード大学、カリフォルニア大学の教授等と麗沢のちぎりを誓い合えたことはまたとない大きな収穫であった。

今回の各セッションを通して概観すると、余り批判的な質問は出されなかった。これは国際関係を配慮してお互いに労り合っていたためと思われる。しかし各国の研究者がそれぞれの地域の実状に応じた研究成果を一堂に会して聞くことが出来たため、国際的な比較がその場で可能になり大変興味深かった。

今回は1992年、開催地はベルギーのブリュッセルと決定した。わが国からの参加がいっそう増加することを切望しつつ、報告の筆をおきたい。